

4. 石橋口

- ポテンシャルと、従前の問題
 - 大阪大学会館がアイストップとなり、庭園、待兼山の緑が目に入るロケーションで、中山池も近い。
 - 平成17年整備以前は、警備員詰所が美観を損ね、案内表示もなかった。
- 整備成果
 - 平成17年に石橋口の警備員詰所、案内サイン等が整備された。
- 残された課題
 - 庭園の景観が十分に活かされているとは言えない。
- 整備方針
 - 現況の豊かな緑を残しながら、より人が集い、くつろげる空間に変えてゆく。
 - 維持管理に費用がかからない形態を目指す。

3. 阪大坂

- ポテンシャルと、従前の問題
 - 湾曲した坂道は、ドラマチックなアプローチとなりうる。
 - 中山池越しに大阪大学会館までの眺望が得られる。
 - 平成17年整備以前は駐輪が多く、自転車が坂を駆け下り大変危険で、貧弱な公道のようだった。
- 整備成果
 - 歩行者アプローチとして魅力ある整備がされた。
 - 平成18年の自転車通行禁止措置により、歩行者の安全性が高められた。
 - 平成22年度に中山池周辺が整備された。
- 残された課題
 - 緑陰が少なく、夏期の舗装の照り返しが厳しい。
- 整備方針
 - 歩行者アプローチとしてより一層魅力的にする。
 - 交通安全対策検討を継続的に行う。
 - 緑陰（並木）の形成を検討する。

2. 阪大坂下

- ポテンシャルと、従前の問題
 - 背景に待兼山の豊かな緑を持ち大学の顔となる位置。
 - 平成17年整備以前は、貧弱な公道のようだった。
- 整備成果
 - 阪大の顔として広がりある空間に整備された。
 - 歩行者アプローチとしての整備がされた。
 - 大規模な駐輪場が整備された。
- 残された課題
 - 緑陰が少なく、夏期の舗装の照り返しが厳しい。
 - 小舗石舗装の歩行感が悪く、バリアフリー性に難がある。
 - 駐輪場が一部荒れている。
- 整備方針
 - 歩行者アプローチとしてより一層魅力的にする。
 - 緑陰をとりいれ、舗装の歩行感、バリアフリー性を改善する。
 - 駐輪場のさらなる有効活用をはかる。
 - 総合学術博物館と駐輪場の一体的な計画を行う。

1. 待兼山

- ポテンシャルと、従前の問題
 - 豊かな里山の景観を良く残している。
 - 阪大の主たる歩行者アプローチに近接。
 - 平成17年以前は、旧医短の建物と敷地が、十分に整備・活用されていなかった。
- 整備成果
 - 修学館（総合学術博物館）が、元々の建築意匠を活かし、景観に溶け込むように整備された。
- 残された課題
 - 里山としての保全方法に課題がある。
- 整備方針
 - 里山を保全しながら博物館との一体的計画を行う。

5. 大阪大学会館周辺

- ポテンシャルと、従前の問題
 - キャンパス内で最も歴史ある建物であり、丘の上でランドマークとなっている。
 - 中山池とセットで、阪大坂方向からの眺望の重要な要素となっている。
 - 平成23年(80周年)整備以前は、イ号館(現 大阪大学会館)の全学利用が少なく、また学生交流棟北側も仮設駐車場に利用され、水辺の快適性が活かされていなかった。
- 整備方針
 - 80周年記念事業により、大阪大学会館が建築意匠を保ちながら改修され、同時にバリアフリー対応の為に屋外エレベーターが設置されたほか、学生交流棟の北側にあるキャンパスの中心的な位置づけとなる親水空間としての広場等も新たに整備された。
- 整備方針
 - 広場や周辺の、緑の維持管理を徹底する。

6. 共通教育メインストリート周辺(コミュニティゾーン)

- ポテンシャル
 - 歩行者空間らしい整備がなされ銀杏並木が美しい。
 - 浪高庭園など、豊かな緑に囲まれている。
 - 共通教育メインストリートとして歩車分離が計られ、美しく整備されている。
- 現状の問題
 - 駐輪が非常に多く、見苦しい上、歩きにくい。
 - 浪高庭園は樹木が茂りすぎて陰鬱な重たい空間となっており、休憩に利用する人も少ない。
 - 中央の街路と建物との間の空間が有効に使われていない。特に言語文化研究科北側の植栽は剪定が行き届かず閉鎖的な空間となっている。
- 整備方針
 - 駐輪場を整備する。
 - 中山池～乳母谷池の軸線を重視し、見通しよい街路として整備。
 - 上記に伴い、浪高庭園は豊かな緑を活かしながら、くつろぎやすい空間の広がりで見通しの良さを持った庭園として整備する。
 - 言語文化研究科北側の樹林地は、適切な剪定を行い、くつろぐことができる開かれた空間として整備する。

7. 総合図書館・サイバーメディアセンター周辺

- ポテンシャル
 - 最重要な交通結節点であり、銀杏通り、全学教育推進機構方面、グランド・東口方面へと動線・景観の繋がりをしている。
 - 総合図書館、食堂によって人の活気のある場所である。
 - 総合図書館、サイバーメディアセンターがそれぞれ、現代的で美しいファサードを持っている。
 - 乳母谷池が近接し、景観上取り込むことが可能。
- 現状の問題
 - バスがここで転回し大変危険な状況にある。他にも一般車両と人との動線交錯が著しく、危険。
- 整備方針
 - 歩行者専用化し、大阪大学会館前と対をなすシンボリック空間として整備する。
 - 乳母谷池親水空間と一体整備して池の景観を生かし、中山池からの軸線も活かした整備を行う。

8. 銀杏通り(基礎工前)

- ポテンシャル
 - 正門から続く銀杏並木が美しい。
- 現状の問題
 - 図書館近くで、実質上歩車分離があやふやである。
 - 柴原口からの重要な歩行者動線が意識されていない。
- 整備方針
 - バスロータリーを整備し、これより北側では歩行者専用空間としての整備を行う。
 - 浪高庭園方面、図書館前方面、柴原口方面、福利ゾーン方面、それぞれへの快適な歩行者アクセスを実現する。

9. 科学教育機器リノベーションセンター周辺

- ポテンシャル
 - 歩行者動線上、柴原口と銀杏通りを結ぶ重要な位置。
 - 建物が低層で、周辺が比較的明るい。
 - 西向きに見ると、らふおれ(食堂)や待兼池周辺がアイストップ的位置を占める。また柴原口から北向きには、基礎工学研究科新館が美しく見える。
 - 待兼池周辺は、空間的に比較的開けている。
- 現状の問題
 - 主要な歩行者動線なのに、車のための道の様相。
 - 建物が老朽化している他、プレハブや、受変電設備などが多く露出し見苦しい。
- 整備方針
 - 主要な歩行者経路として快適な街路を形成。
 - 現科学教育機器リノベーションセンター北側～柴原口は歩行者優先を強化する。
 - 可能な限り緑地、広場化をはかる。
 - 将来計画建物が歩行者街路・広場に悪影響を及ぼさないようにする。
 - 待兼池周辺の空間の広がりを保全し活かす。

10. 柴原口周辺

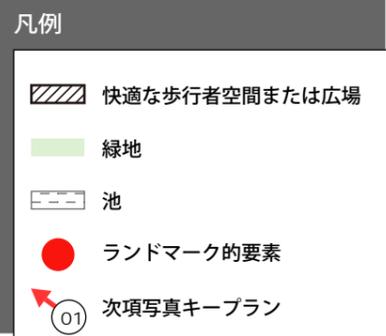
- ポテンシャルと、従前の問題
 - 原子核実験施設以南では、歩行者専用の小径になっており、草が刈られた状態では静かで快適な、比較的見通しの良い歩行者空間になっている。
 - 平成24年整備以前は、貧弱な裏口であり、隣接する駐輪場跡地も管理が行き届かず景観を損ねていた。
- 整備成果
 - 新柴原口が快適な歩行者用の入口として整備された。
- 残された課題
 - 主要な歩行者動線としては有効幅員が全体に狭く、かつ空間の広がりにもネック部分がある。
- 整備方針
 - 主要な歩行者経路として快適な街路を拡張・形成する。
 - 周辺の老朽建物を含むエリア全体の再編を検討する。

全体共通の問題(デザインガイドで解決提案)

- 総合図書館など、歩行者に圧迫感を感じさせる建物がある。
- 歩車分離・融合が不明確な部分が多い。
- 駐輪があふれている。
- 植栽が過剰とも思えるほど茂ったり、道に対して過剰に重層的に存在して閉鎖感を与えている部分が多い。
- 建物入口部分に人を惹きつける工夫がほしい。
- 車で常時入構出来るのが正門しか無く、その他の出入口(石橋口・柴原口以外)の運用方針が明確でない。災害時の利用などの想定が必要。

11. 福利ゾーン

- ポテンシャル
 - 人の賑わいのある空間である。
 - 文法経講義棟西側など、土地に若干ゆとりがある。
- 現状の問題
 - 十分に歩車分離が計られていない。
 - 縦列駐車がも多く、放置車両も見受けられる。
- 整備方針
 - 可能な限り歩行者街路としての快適性を高めるが、重要な車動線にもあたるので歩車分離を徹底する。





01 総合学術博物館（修学館）の門周辺
豊かな緑を背に、大学の顔となるべき場所



02A 阪大坂
湾曲した坂は、ドラマチックなアプローチとなりうる。



02B 中山池堤防から大阪大学会館方向をみる
中山池と大阪大学会館が一体となって景観を形成している。



03 石橋口
記念庭園と一体で整備されている。



04 大阪大学会館
メインストリートからもランドマークとして見える。



05A 共通教育メインストリート（コミュニティゾーン）
歩行者専用空間として美しく整備されている。



05B 浪高庭園
豊かな緑を持ち、キャンパスに潤いを与えている。



06A 総合図書館・サイバーメディアセンター前
キャンパス内で最も賑わいがある。



06B 総合図書館・サイバーメディアセンター前
キャンパス内で最も賑わいがある。



07A 銀杏通り周辺
歩車分離され、並木と共に美しく整備されている。



07B 銀杏通り（待兼池）
オープンスペースが整備されている。



08 科学教育機器リノベーションセンター周辺
キャンパス内で最も施設密度が低く、街路が明るい。



09 柴原口
草が刈られた状態では、静かで快適な歩行者空間。



10 福利ゾーン
賑わいがある空間。歩車分離が不十分。



11A 理系ゾーン
現代的な統一のイメージを前面に出している。



11B 理系ゾーン
高密度な土地利用がなされている。



12A 文系ゾーン
建物の入り口が街路からの引きを多くとっている。



12B 文系ゾーン
緑が多く、歩行者専用空間を多く持つ。



13 待兼谷
緑豊かな里山の景観を良くのこしている。



14 乳母谷池・東口
豊かな緑をのこしており、歩行者入口として整備されている。



1. 医学部附属病院
高層棟は周辺地域のランドマークとなっている



2. ホスピタルパーク
患者の憩いの空間として活用されている



3. 医学部校舎と芝生広場
古典的なデザインと芝生広場のキャンパスらしい景観



4. 生命科学図書館
正門からのアプローチのアイストップとなっている



5. 中央通り
豊かな緑に囲まれたシンボルロード



6. 正門アプローチ
常に手入れが行き届き、特別な場所となっている



7. コンベンションセンター・体育館前
心地よい広場空間は人気の高いエリアである



8. 大阪大学本部棟南側広場
キャンパスの中心的な広場として整備されている



9. 犬飼池の眺め
里山と池、工学部のモダニズム建築が生み出す景観



10. 里山の散策路
キャンパス中央に残された自然



11. 銀杏会館前
植栽で修景された法面が緑の壁をつくっている



12. けやき通り
春には桜の並木道となる



13. 楠本会館周辺の桜
隠れた花見の名所



14. 遺伝情報実験センター横のしだれ桜
キャンパス内には、いくつかの桜の名所がある



15. さくら環状通りの植栽（アジサイ）
自主的に植えられた様々な草花が、法面を彩る



16. 西門アプローチ
緑のトンネルを上っていくようなアプローチ



17. 工学部広場
工学部エリアでは最も賑わう場所である



18. 工学U1M棟（GSE高層棟）
高層棟はキャンパス西部のランドマークである



19. 産業科学研究所アプローチ周辺
緑と広がりのあるオープンスペースをもっている



20. 工学部中庭
人々に安らぎの景観を与えている